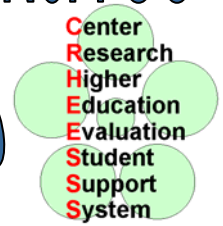


週刊センターニュース No.160



第160号(2007年5月28日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第150回共同学習会のご案内

日時: 2007年5月31日(木) 16時30分~18時

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階会議室

報告者: 青野 透・早田幸政・西山宣昭・堀井祐介(大学教育開発・支援センター)

テーマ 日本高等教育学会第10回大会参加報告

趣旨: 高等教育学会大会での自由研究発表および課題研究発表の内容について報告するとともに、金沢大学の現況と照らし合わせながら、今後検討していかねばならない課題等について、上記の研究発表から得られる示唆をもとに参加者と一緒に考えていきたい。

日本高等教育学会第10回大会参加報告

2007年5月26日(土)、27日(日)の2日間、名古屋大学で開催された標記大会に参加した。公開シンポジウム「いま、求められる高等教育研究とは?」、課題研究発表2件「青年期教育としての大学教育」、「専門職大学院における学位と知」、自由研究発表21部会70件と質、量とも多く、非常に内容の濃い大会であった。金沢大学大学教育開発支援センターのメンバーも、自由研究として、「教員組織部会」において「教員組織改革の現状と方向性 - 文科省委託アンケート調査の専門分野別分析をてがかりに - 」という発表を行った。プログラムの詳細については、<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/jaher2007/program.pdf>を参考にしていきたい。

それらの中から、本稿では、カリキュラム部会で、「大学におけるカリキュラム改革のための支援ツール開発」について紹介させていただく。ここでは、名古屋大学を中心としたメンバーが、大学におけるカリキュラム改革支援の一つのあり方としてまとめたハンドブック『ティップス先生のカリキュラムデザイン』について、そのコンセプト、背景理論、作成過程、ハンドブックの内容、今後の課題等について発表を行った。以下に、目次、コラムタイトルの一部をあげさせていただく。本ハンドブック全体は、Web上にPDFファイルとして公開されている(http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/file/curriculum_design.pdf)ので詳細はそちらをご覧ください。

[目次]

明確な教育目標はどのように設定すればよいでしょうか?

卒業生のコア・コンピテンシーを明らかにし、カリキュラムに反映させるにはどうしたらよいでしょうか?

学生のニーズを把握してカリキュラムの改訂を行う場合、根拠となるデータをどのように集めたらよいでしょうか?

厳格な成績評価を実現するためにはどうしたらよいでしょうか?

単位の実質化をどのようにはかればよいでしょうか?

学生が主体的に学習し、学習効果を高めるために、どのようなカリキュラムの運用上の工夫をすればよいでしょうか?

個々の科目の評価とともに、カリキュラム全体を評価するにはどうしたらよいでしょうか?

[コラム]

カリキュラムの開発プロセスがみえる！

名古屋大学の文脈にそくした「よりよいカリキュラム」を創るには？

意欲の高い学生をさらに伸ばそう

「レベル」と「コア」から考えるカリキュラムデザイン

成人学習者のニーズにはどういった特徴がある？

フォーカスグループインタビューのコツ

学生の到達度を明確にする成績評価方法：GPA

教育効果の測定は一日にして成らず

大学のカリキュラムはどう規定されているのか - 大学設置基準を読む

キャップ制を導入する前に考えること

大学のカリキュラムはどう規定されているのか - 認証評価基準を読む

コースレベルのデザインの流れ

カリキュラムの質的向上を考えるための視点

正課外の諸活動の効果もお忘れなく

従来、高等教育研究所でカリキュラムを扱ったものはいくつか出ているが、学内でのカリキュラム改革の進め方について、ここまで具体的に記述されているものはなかった。もちろんあくまでハンドブックであるため、「成果目標や達成度が定めにくい教養教育のカリキュラムデザインへの適用困難」、「学部と比べ段階制がつけにくい大学院のカリキュラムデザインへの適用に工夫が必要」といった批判的意見も名古屋大学内であったとのことであるが、「議論を開始する上で一連の流れが参考になる」、「教育目標の設定という上位からの階層性が参考になる」といった肯定的意見も出ている。名古屋大学高等教育研究センターはこれまでも教授・学習サポートツールとして「ティップス先生」シリーズを作成してきている(<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/>)。現代の高等教育には、ミクロレベルとしての授業から、マクロレベルとしてのカリキュラム、学内運営等にいたるまで、従来の経験則からの判断ではなく、明確な目標設定、進行過程の透明化、結果の明示を求められている。このような状況において、学内での活動における無駄を省き、広い意味でのFDを実質化するためにも、個々の活動における教員の裁量の余地を残すためにも、この種のハンドブック、マニュアルは、便利なものであると思われる。

他にもFDの方法論部会で、「高等教育研究における臨床研究アプローチの可能性 授業コンサルティングを事例に」、「教員の教育力の向上に関する日米比較研究 IT技術利用の視点から」、大学院生を対象とした大学教授法研修会の可能性と課題」について、カリキュラム部会で、「日本の大学教育におけるサービス・ラーニングの諸形態と教育上の役割について」、「大学におけるサービス・ラーニングの現状と課題 日米事例調査より」に参加した。ご関心がある方は、内容、資料等については、内線 5858 または horii@ge.kanazawa-u.ac.jp までお問い合わせいただければ対応させていただきます。 (文責 教育支援システム研究部門 堀井祐介)

高等教育に関連する学会・セミナー情報

- ・6月2日(土) 13:00~17:30 国際シンポジウム「研究・教育のシナジーとFDの将来 - 教員・部局・全学の有機的連携」(東北大学高等教育開発推進センター)

会場：東北大学マルチメディア教育研究棟 6F ホール(川内キャンパス)

詳細は、<http://www.he.tohoku.ac.jp/center/2007project/2007project0602.pdf>

- ・6月2日(土) 13:00~17:00 私立大学フォーラム「大学の地域貢献とは何か」(日本私立大学連盟)

講演：佐野 太(文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長)

パネリスト：仙道富士郎(山形大学学長) 木本圭一(関西学院大学学長補佐)

伊藤雅夫(東京農業大学オホーツクキャンパス生物産業学部長)

会場：パレス宮城野 2階「はぎの間」(仙台市青葉区上杉 3-3-1)

詳細は、http://www.shidairen.or.jp/blog/files/doc/20070419_b01_01.pdf